



## 接合工法改革の時

「接合工法の改革」を旗印に工業製品を始め、さまざまな分野でボルトを使った無溶接接合を展開するロボテックスファスニングシステム(東京都中央区、川邊裕一社長)。自動車産業が急激に冷え込む中、川邊社長は特に建築分野に成長のシーズを見出している。これからは、日本発の特許ファスナーを、海外で使えるようにしたいと、オリジナリティーの高い製品の販売を見据える。まず、建築の耐震補強工事を足がかりに、環境にやさしい無溶接工法のメリットをひたすらアピールする考えだ。

2008年度の売上高は前期比約10%を見込んでいたが、「12月あたりから不透明になってきた」ということで、自動車など一般産業での需要減退を背景に、他プレーヤがかかった。それでも、建設向けは前期比で2倍以上伸びる製品があるなど好調を維持しているため、全体では前期実績(約11億6000万円)以上の売上高を確保できそうだという。「経営利益も前期と同水準の6000万円は確保できる。09、10年度はさらに伸びると、建設向けの展望は明るい」と見込む。



この企業 この人

(株)ロボテックスファスニングシステム 社長 川邊 裕一氏

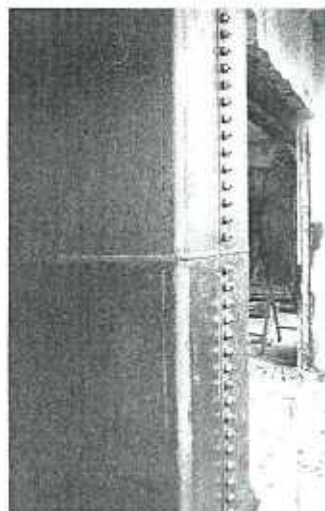


環境にやさしい 無溶接工法提案

部の補強や部材接合で、製造は川邊社長が「日本一のナット会社」と認識するアセラシ(本社・大阪府東大阪市)が手掛けている。ボルト接合は最近、施工性の高さだけでなく、環境性能の高さも評価され始めている。

「企業イメージ向上のために環境への取り組みを強調する時期から、企業として真剣に取り組みなければならぬ時期に来ている。ワンサイドボルトを中心とした製品が主役になる時だ」と、エネルギー消費や二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減のため、溶接からボルト接合へのシフトは社会的要請とみている。

S 世の柱と柱の接合で使う無



ワンサイドボルト。閉鎖断面部の補強に適している

RC柱への鋼板巻き立てによる耐震改修で、ワンサイドボルトが生きる

### ボルト接合へのシフトは社会的要請

柱への鋼板巻き立てによるRC造の耐震補強は、事業の大きな柱の一つ。炭素繊維を巻く補強方法もあるが「接着に有機溶剤が使われれば、住環境が悪化する。鋼板巻き立てでも溶接であれば、おおいの問題が出てくる。施設運用の妨げになるような方法は避けたい」と、セネコンにはワンサイドボルトの使用を提案している。

アレスを使った補強は、窓をふさいで眺望性、採光性が失われる。「簡単に斜材を入れる耐震補強が多い気がする。ただ、強度を確保する仕組みを考へるべきだ」と訴える。

特に避難所となる体育館の耐震補強が急務と考へている。「ドーム屋根のサイドの補強にワンサイドボルトを使ってほしい」と、同分野を重点テーマに挙げる。

「溶接からの切り替えが進む分野は多いと考へている。ワンサイドボルトの有益性を知らない人が多い。われわれ、も工具の世界では有名だが、建築ではまだ知られていないから、環境や安全性などユーザーが望む製品を提供して知名度を上げていきたい」

#### 会社概要

- ▷設立=1988年7月2日
- ▷所在地=東京都中央区日本橋地蔵町1-5-11 地蔵Dビル5階
- ▷電話=03-5847-4100(代表)
- ▷ファクス=同4101
- ▷資本金=1,000万円
- ▷営業品目=工業用ファスナー、ツールシステム